令和５年度　地域文化活性化助成　活動成果概要

団体名・個人名	TRA-TRAVEL
活動名称	TRA-TRAVEL Δ 企画 2023 (トラトラベルデルタ企画) ~三者間の創造的国際マッチング~
活動内容	「TRA-TRAVELΔ 企画 2023 三者間の創造的国際マッチング」は、Δ（デルタ）と呼ぶ 3 者間マッチング方式を採用し、「①国内外のクリエイター＋②大阪の施設＋③私たち TRA-TRAVEL」を結び付けて、大阪の複数地域でアーティスト・イン・レジデンス事業「AIRΔ」とトークイベントシリーズ「TRA-TRA-TALK」を開催する企画です。
活動のコンセプト・ねらい	TRA-TRAVEL は、『大阪に国際間の芸術動線を創造する』ことを目的とした団体です。本活動のアーティスト・イン・レジデンス事業「AIRΔ」とトークイベントシリーズ「TRA-TRA-TALK」もまた大阪と国際間をむすぶ芸術活動の一環です。国内外の現代アートの潮流や実践を紹介し、さらに世界のアーティストたちの実践を大阪で展開します。 またそれぞれのイベントは、区をまたぎ大阪の多様な場所で開催しています。それによって地域の人やイベント施設の顧客などの新たな出会いや、偶発的な国際交流を生むことをコンセプトにしています。 そして大阪の潜在する場所から文化を発信するとともに、新たな場所性を提示し、海外の視点から、大阪の歴史や文化芸術を発掘する事で、大阪の文化芸術をボトムアップすることを中長期的な目標としています。

活動実績	●AIRΔ（アーティストレジデンス事業） **● AIRΔ vol.5：アナ・メンデス** 令和 5 年 5 月 20 日ー6 月 5 日 滞在場所：DOYANEN HOTELS BAKURO（大阪市西成区萩之茶屋 2-8-12） **●AIRΔ vol.6：タイラー・コバーン** 令和 5 年 7 月 10－15 日 滞在場所＆トーク：DOYANEN HOTELS BAKURO（同上） ワークショップ：イチノジュウニのヨン（西成区山王 1-12-4） **●AIRΔ vol.7：カール・カストロ** 令和 5 年 4 月~12 月 30 日（ 公募準備開始からアーティスト帰国まで） 滞在場所＆ワークショップ：SSK（住之江区北加賀屋５丁目４－６４） 展覧会＆トーク：千鳥文化（住之江区北加賀屋５丁目２−２８） AIRΔ プログラムでは、3 名の海外アーティストを大阪に招聘し、そのうち 2 名はショートレジデンス形式で滞在、残りの 1 名は、Japan foundation Manila との共同企画により、フィリピンからアーティストを招聘し、3 ヵ月間の滞在を実現しました。Japan foundation Manila と協力してフィリピン国内で行ったオープンコールには、フィリピン各地から約 80 名の応募がありました。この中から、最終的に 3 名を受賞者として選出し、大賞を受賞したカール・カストロ氏は大阪に滞在しリサーチ及び制作を 3 ヵ月行いました。カストロ氏は、特に大阪の 70 年万博とフィリピン館に焦点を当てたリサーチを行い、日本とフィリピンの関係やフィリピンのナショナルアイデンティティを探求する展覧会を開催し、新たな万博を迎える観客にとっても深く考えさせられるプログラムとなりました。 ＜**AIRΔ vol.5**＞ アナ・メンデス トークイベント 『Re: 博物館 – ポストコロニアルな視点から見た収集品 -』 場所：ドヤネンホテルズ（西成区） ポルトガル人ビジュアルアーティスト/ライターのアナ・メンデスは、「The People’s collection」というプロジェクトを通じて、世界中の博物館の展示品や所蔵品、路上彫刻などをポストコロニアルな視点から再解釈しています。 日本で行う「The People’s collection」では、博物館の所蔵品などを通じて、日本や周辺国との過去や現在の関係性を読み解こうとしており、大阪の国立民族博物館もリサーチ対象となっています。そして AIRΔ vol.5 では、ショートリサーチレジデンス作家として、DOYANEN HOTELS

BAKURO(大阪市西成区)に滞在し、過去から現在までの「The People's collection」を語りあかすトークイベントを開催しました。

＜AIRΔ vol.6＞

タイラー・コバーン

ワークショップ

『Counter Factuals』

場所：イチノジュウニのヨン（西成区）

タイラー・コバーンは、ニューヨークを拠点とするアメリカ人ビジュアルアーティストです。多様なメディアを用い、植物学、法律、人間工学などを題材に制作を行っています。これまでポンピドゥーセンター(パリ)、ホイットニー美術館(ニューヨーク)、ヘイワード・ギャラリー(ロンドン)などで作品を発表しています。

AIRΔ vol.6 では、ショートリサーチレジデンス作家として、7 月 14 日に DOYANEN HOTELS BAKURO(大阪市西成区)にてトークイベントを、翌日 15 日にイチノジュウニのヨン（大阪市西成区）でワークショップを開催しました。

トークイベントでは、コバーンのこれまでの活動の紹介から始まり、日本で行った南蛮芸術に関するプロジェクトについてトークを行うことを通して、感覚から歴史にアプローチする方法を私たちに提示します。またワークショップ「カウンターファクチュアルズ・反実仮想」では、歴史上で起きた事象に対して別のシナリオを想像することから、私たちの現在の有り様に、別解釈をもたらすゲーム式ワークショップです。両イベントを通して、歴史を再構築するダイナミックな方法から、「今」という瞬間を批評的に見つめなおす機会を作りました。

＜AIRΔ vol.7＞

カール・カストロ

個展 『Dream After Dream』

場所：千鳥文化（住之江区）

（ジャパンファウンデーション・マニラ支部との共催）

カストロは、絵画、写真、インスタレーションなど、多様なメディアを用いて、歴史／社会的な出来事や人物、彼自身の経験や現在の社会状況の考察に基づいた作品制作を行なっています。

3か月間におよぶ大阪での滞在制作では、1970年の日本万国博覧会（大阪万博）とフィリピン館を、日本とフィリピンの社会というより広い文脈の中に位置づけ、リサーチを行いました。

タイトルの『ドリーム・アフター・ドリーム』は、繰り返される束の間の出来事や野心への寓意を意味します。カストロが、数々の夢を大規模に動員する万博の背後から浮かび上がらせる、緊張／断絶／カウンターナラティヴ（別の物語）を通して、再び大阪万博を向かえる私たちに様々な視点をもたたらした展覧会でした。

●TRA-TRA-TALK（アーティストトーク・プログラム）

●TRA-TRA-TALK　vol.4：中村史子、金井美樹

令和6年1月24日

トーク場所：VisLab OSAKA（北区大深町３－１）

●TRA-TRA-TALK　vol.5：OCAC(P.M.S)、san art

トーク：令和6年02月04日

関連上映イベント（台湾）：令和6年02月03日

関連上映イベント（ベトナム）：令和6年02月18日

全イベント場所：JUU arts&stay（西成区萩之茶屋2-8-12）

＜TRA-TRA-TALK vol.4＞

金井美樹、中村史子

トーク　『ヨーロッパから東南アジアへ　アート・ジャーナリストの視点』

場所：VisLab OSAKA（北区）

アート・ジャーナリスト金井美樹さんと大阪中之島美術館学芸員中村史子さんが、マレーシアの地方都市でのアート／文化シーンについて語り合う本イベント。イベントでは、金井さんの約20年間におよぶベルリンでの活動、昨年東南アジアへ拠点を移したきっかけ、そしてマレーシアでの暮らしや発見など、彼女のアートに対する思いや経験を伺いました。また、現在ドイツの政治が介入するアートの状況、コロナ禍やドクメンタ15の印象など、ヨーロッパと東南アジアのアートシーンに身を置いて肌で感じた違いや共通点についても語り合い、この対話を通して、ヨーロッパのアートシーンの現状や課題、東南アジアのアートシーンから私たちが学ぶべきこと、そして両者が見すえる芸術の未来を共有するトークを実施しました。

＜TRA-TRA-TALK vol.5＞

OCAC(P.M.S) 、san art

「９つの質問:アートオーガナイゼーションの活動と国際交流の可能性― 台北、ホーチミン、カールスルーエから」

＊映像上映イベント

「Un/Uttered」(台湾映像作品)

「in flux: ベトナムビデオアートの流れを振り返る」（ベトナム映像作品）

場所：JUU arts&stay（此花区）

TRA-TRA-TALK vol.5 では、3 回のイベントを開催しました。台北 OCAC、ホーチミン san art からアートオーガナイゼーションの代表者を招き、各国各地でどのようにアートが機能しているか、また国際交流の可能性について議論しました。さらに各地域のアート作品を紹介する派生イベントとして、各国のアーティストによる映像上映イベント及びトークセッションを実施しました（台湾／ベトナム 計 2 回）。

現在のトレンドがどのようなものかについて意見交換を行い、国や地域によって異なる「アートに関する制度、歴史、文化助成、国際協力」について理解をふかめ、同時代のアートの動向に耳をかたむけ、新たな視点やインスピレーションを得る機会をもちました。また映像作品を通じ、都市文化と伝統文化、人間と自然、ジェンダーの捉え方、複雑な現代社会におけるアイデンティティなど、さまざまな境界を問える意見交換を行いました。

事業の成果・効果	**事業の成果及び効果** **助成申請時に以下の点を「ねらい」として掲げていました。** **（申請書抜粋①）** **私たちのアーティスト・イン・レジデンス(AIR)とアーティストトーク事業では、参加クリエイターの希望を聞き、滞在場所や施設をマッチングし、これまで AIR やアーティストとの交流がなかった地域を含め、複数の地域に事業を展開する。それゆえ、これまで公的機関が運営する AIR やアーティストトークが社会や地域に与えてきた影響とは、異なる波及効果が見込めます。(従来の AIR 事業は、1 つの地域に特化した、局所的なプログラムが実行されてきたといえます。) また大阪の潜在する場所から文化を発信するとともに、また新たな場所性を提示し、そしてイベント会場を行き交う人たちを鑑賞者として引き込むことで、新たな人の繋がりをもたらします。** →成果及び効果： TRA-TRAVEL はこれまでも大阪市内の多様な場所でプログラムを実施してきましたが、AIRΔ vol.5 及び 6 では新たな挑戦としてホテルと協働実施いたしました。短い滞在を希望するアーティストにとっては大阪市内のホテルに滞在し、ラウンジスペースでトークイベントを実施することは利便性の高い方法となりました。またアートに関心が高い観客だけではなく地域の方の参加もあり、場所を移すことで新たな観客へリーチできている実感を得ました。 AIRΔ vol.7 ではジャパンファウンデーションマニラと共同でフィリピンでレジデンスアーティストの公募を行うことから始めました。応募はフィリピン各地から 80 名ほどあり、初の試みではありましたが関心の高さが伺えました。レジデンス作家は大阪での成果展覧会を、フィリピンに巡回展示するなど、両国のアートシーンが繋がり、新たな交流や創造が生まれる兆しを確かに感じ取ることが出来ました。ジャパンファウンデーションマニラとの共同実施は 3 年続けて実施いたしますが、初年度のケースとしては想定よりも豊かなプログラムを実施することができました。 トークイベントの TRA-TRA-TALK でも、国際的なオーガナイゼーションを大阪へ招聘し各国のアートシーンの実践や葛藤を学びあう機会を作ることができました。 このように大阪発信のプログラムは、地域や国を越えて波及しており、大阪に国際的なアートシーンの動線を生む、という私たちの目標が進捗していると考えています。

	（申請書抜粋②） **私たち自身では施設を持たないことを利点に、「1 私たち/プログラムの企画運営」、「2 滞在制作/成果展を行う外部施設」、「3 国内外のアーティストの招聘」という、“三点を結ぶ”ことで、事業のスキームを構築しています。** **このように、すでにある資源や資産を出し合い結びつける手法は、関わる当事者の負担やコストを削減する持続可能性を高め、イベントの質の向上に予算をあてられる事業デザインです。日本国内はもちろん世界各地にある継続が困難なアートイベントやプロジェクトへ新たな例を提示するなど、国内外へ影響を与える潜在性を有しています。** →成果及び効果： 20203 年度はジャパンファウンデーションマニラ（フィリピン）、OCAC（台湾）、San Art（ベトナム）と協働し大阪でプログラムを実現できたことから、『大阪における国際交流の窓口としての認知』は確実に広げることが出来ました。 大阪に視察に訪れた SAC ギャラリー（タイ）のギャラリストが、私たちのレジデンスプログラム（AIRΔ）へ関心を示し、2024 年度はフィリピンに続き、タイとも交流プログラムを実施することとなりました。私たちの三者間の相互扶助の事業モデルは、プログラム実施者の負担を減らすことができ、外国の優れた組織との協働を今後も更に発展・実現いたします。 （申請書抜粋③） **助成金によって実現できる事として、「製作費や出演費」は、アーティストインレジデンス(AIR)とアーティストトークのプログラムの質を格段にあげ、また「宣伝費」と「記録費」によって大阪での「新しい AIR と国際的なトーク」を広く周知することができます。** **そして「1 クリエーター+2 施設保有者+3 外部キュレーション団体(TRA-TRAVEL 他)」というリソースの組み合わせは、国内外で採用できるモデルであり、大阪以外の様々な地域に影響を与えることが期待できます。** **また海外旅行者によるオーバーツーリズム時代とは異なりますが、徐々に海外移動が正常化しようとしている現在の大阪を、国内外のアーティストの視点を通してドキュメントすることに価値があると考えています。** →成果及び効果： 「製作費や出演料」を拡充できたことにより 2023 年度は多くの海外のアーティストやアートオーガナイゼーションを招聘することが出来ました。オンラインでイベントを行うことが一般化した昨今にあっても、実施に多くの時間を共に過ごすことで豊かな交流を生むことができ、また海外アーティストが大阪に滞在する経験から得られるインスピレーションは大阪に住む私たちにとっても示唆に富む投げかけとなり、各イベントで観客へと共有さ

	れ豊かな対話を生みました。「宣伝費」や「記録費」を得る事で各イベントのアーカイブ化を外部スタッフに委ねることができイベントの実務部分など前提に質的な向上を見込むことが出来ました。 また重複となりますが、私たちが採用するΔ（デルタ）という3者のリソースを組み合わせる方法は国外でも適用可能であり、2024年度はジャパンファウンデーションマニラの他、バンコクのSACギャラリーなど国際間のコラボレーションを実施することが可能となりました。
今後の展開	2023年度には多くのプロジェクトを実施したことで、国内外での認知度が向上し、地域内外から来場者がありました。これは本助成金の力が大きかったと言えます。またプロジェクトを実施することで、大阪に国際的なアートシーンを導入するという私たちのミッションが形になりつつあると感じています。 2024年度には、『大阪ー国外の芸術動線 』と『大阪ー国内芸術センター間の芸術動線 』を創造するレジデンスプログラム、またそれに関連する『アーティストトーク・プログラム 』の実施を計画しています。国際アートシーンでのさらなる認知度の向上を目指し、大阪でより豊かなプロジェクトが実現し、大阪の文化芸術をボトムアップする活動を続けてまいります。